



あおもり 町連だより

第237号

令和8年8月発行
青森市町会連合会
〒030-0801 青森市新町一丁目3-7
TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

地域のつながり守って未来へ

令和8年度 総会 開く

青森市町会連合会の令和8年度定時総会が5月28日、ホテル青森で開かれました。

青森市（赤坂寛副市長）、市議会（奈良岡隆議長）、青森警察署（外崎正文地域官）、浪岡町内会連合会（森隆会長）から来賓を迎え、367町会から町会長159人が出席しました。

西秀記市長の祝辞（赤坂副市長代読）で2年続きの豪雪災害を振り返り「除排雪作業の大幅な遅延が大変な不便と不安を招き行政の責任者としてお詫びします」と謝罪。来冬に向けて「どんなに雪が降ろうとも、しっかり機能し実効性のある除排雪体制を構築します」と決意を述べました。

また奈良岡市議会議長は「人口減や高齢化の急速な進行、地域のつながりの希薄化にも直面しており、町会の役割は増えています。議会として誰もが安心して心豊かに暮らせる街に向けて全力を傾注します」とあいさつしました。

議事は8年度の事業計画、収支予算、役員改選など全5議案を原案通り承認しました。承認された役員は会長に佐々木重光氏、副会長に松本勝義氏、鈴木茂氏をそれぞれ再任。



町会運営を大胆に見直そうと開いた定時総会

監事は木村清明氏、福井忠英氏、樋口修三氏です。

佐々木会長は開会のあいさつで、地域のつながりを守る大きな役目は果たしてきた町会が、活動の要となる担い手の不足に加え、役員の負担増にも直面しているとして、これまでの延長線で対策を進めていては解決が難しいと説明。

このため町会運営の再構築が迫られているとして、行政と連携し、デジタル化の推進によって事務作業の軽減、回覧板、会計処理の効率化、防災体制の整備などを図り、「未来へつなぐ町会、町会連合会を目指します」と抱負を述べました。

**【退任町会長、優良町会員の
受賞者は2面に掲載】**

基本方針

青森市町会連合会の目的である「各町会の連絡協調と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよいまちづくり」のため、活動を推進します。

少子高齢社会の進展と人口減少等により、地域力の強化が喫緊の課題となっている中で、町会が地域コミュニティの中心的な役割を引き続き担っていくために、町会連合会が今後もその役割を果たし続けられるよう、見直しを進めます。

町会連合会、地区連合町会、町会の組織一丸となった活動を原点とし、「ふれあい・助けあい・支えあい」の地域みんなのチカラで、地域住民みんなが明るく笑顔ですごせる町会づくりを推進します。

退任町会長・優良町会員を表彰

青森市町会連合会は令和8年度定時総会で表彰規程に基づき、退任した町会長21名と優良町会員83町会97名を表彰しました。受賞者を代表して平井潤治さんが「日頃より私どもを支えてくれた家族、町会のみなさまの力添えによるもので、そうした多くのみなさまとともに頂いた賞と受け止め、今後とも地域発展のため力を尽くす覚悟です」とあいさつしました。



受賞者を代表してお礼のことばを述べる平井潤治さん(左)と優良町会員の館山さん

□20年以上勤続し退任

榊秀雄(中央旭町、24)

□5年以上20年未満勤続し退任

平井潤治(浪打一丁目、9)伊藤亮(露草、6)福田早男(浜館、14)久米田柁雄(南佃、10)阿保啓治(けやき、6)故・木村麻人(市営住宅戸山団地、7)中村二郎(桜木、7)間山一矢(入内、12)白鳥武光(荒川一区、16)井沼洋三(東奥野、11)滝淵祐助(みちのく、8)新山修二(西金沢、

8)加川史(片岡、9)故・町田昇(油川仲町、7)江利山正勝(ひばりの、13)葛西守(のぎわ団地、16)故・福士佳夫(南柳町、12)井上康司郎(本町中央、7)千葉滋(八甲町、15)故・木村豊(嘉重町、12)

□優良町会員

館山生木(油川あけぼの)ほか96名

(敬称略、カッコ内は町会名、勤続年数)

8年度の主な活動

◇総務部会

各専門チームが所管する事業について、より一層効率的・効果的な事業内容とするため、必要に応じ見直し等を検討する。

(1)総務チーム

- ・定時総会等の開催

(2)研修チーム

- ・新任町会長研修会の開催
- ・理事研修会の開催
- ・青函ツインシティ交流研修会

(3)検証チーム

- ・企画部会の実施事業等に関する検証

◇企画部会

令和7年度において各専門チーム内で取り組んだ課題の中で、継続して取り組む課題

及び新たに取り組む課題について、具体的な解決方策を検討する。

(1)町会コミュニティ活動対策チーム

- ・町会役員の担い手確保
- ・イベント企画の推進
- ・アパート居住者の町会加入率向上対策の強化

(2)快適なまちづくり対策チーム

- ・生活道路について住民が安心できるような除排雪対策の確立
- ・市との除排雪に関する意見交換会

(3)交通・防災対策チーム

- ・地域における防災対策の強化
- ・子どもの交通事故防止対策の推進

◇女性部会

- ・女性部会勉強会の開催
- ・町会女性(婦人)部役員研修会の開催
- ・町内女性の集いの開催

◇市政懇談会

市政運営全般に関し、地域に波及する課題・問題を題材に町会連合会が意見や提言を行うことで、市政への理解を深めるとともに住みよいまちづくりの推進を図る。

(市主催の未来ミーティングへの移行等について検討)

計 報

中部第2区 南柳町町会

町会長 福士 佳夫 殿

令和8年2月9日ご逝去



桜川団地町会

町会長 千葉 正美

桜の回廊が見事

当町会は、昭和42年(1967)桜川団地町会を発足し、現在に至っています。桜川団地地区は国道堤町から2^{キロ}先の南へ位置し、東側は駒込川、西側は荒川に囲まれた地域にあり、世帯数は約1,300戸で構成され青森市内では大きな町会となっております。

特に紹介したい事は皆様もご承知の通り、春には桜並木の桜が満開になり桜の回廊が見られることです。心を落ち着かせてくれる景色だと感じています。また、町内にはスーパーやドラッグストアなどの商店があり、生活に不自由を感じさせない環境が整っております。

子どもねぶた56年目

当町会では、昭和45年に第1回こどもねぶた運行を実施、地区住民の行事として根付いており、ことし56年目を迎えました。今年度も8月下旬に運行を実施する予定となっております。

少子高齢化により、ねぶた運行に携わる人数も限られ、年々厳しい状況が続いておりますが、先輩の方々が残した伝統の炎を絶やさないよう後世まで続けていくことが、使命だと感じております。桜川



伝統になった子どもねぶた運行



通学する新入学児童の街頭指導



桜並木の落ち葉をみんなで清掃

団地町会の皆様と共に運営を推進していく所存です。

交通安全運動を強化

桜川団地町会地区では、昭和52年1月1日から交通死亡事故皆無18,000日間記録(令和8年4月現在)を達成しており、交通安全運動強化を重要事項として捉えています。

春には新入学児童の街頭指導、秋には交通安全・防犯パレードを町民と筒井小学校吹奏楽部生徒の皆さんのお力を借りて、町民の方々へ街頭PR活動を実施し地域住民の安全、安心を第一に考え継続して活動が続けていきたいと考えております。

住民で良かった

当町会の年間行事は春の町内清掃、春の交通安全運動期間に合わせた新入学児童の街頭指導の実施、桜川団地町会子どもねぶた運行(8月末)、ラジオ体操への参加推奨(桜川中央公園)、桜並木の落ち葉清掃(毎年11月)、文化祭(桜川福祉館)、秋の交通安全・防犯パレードなど盛りだくさんです。

年間の行事を通じて桜川団地町会の住民で良かったと思えるよう今後も住民の意見を取り入れ、全住民で町会の在り方を模索し迷いなく邁進してまいりたいと考えております。

ホームページをご覧ください

青森市町会連合会のホームページは町会の広報紙も掲載しています。パソコンでもスマートフォンでもご利用いただけます。アドレスは次の通りです。
<https://aomori-choukairen.jp>

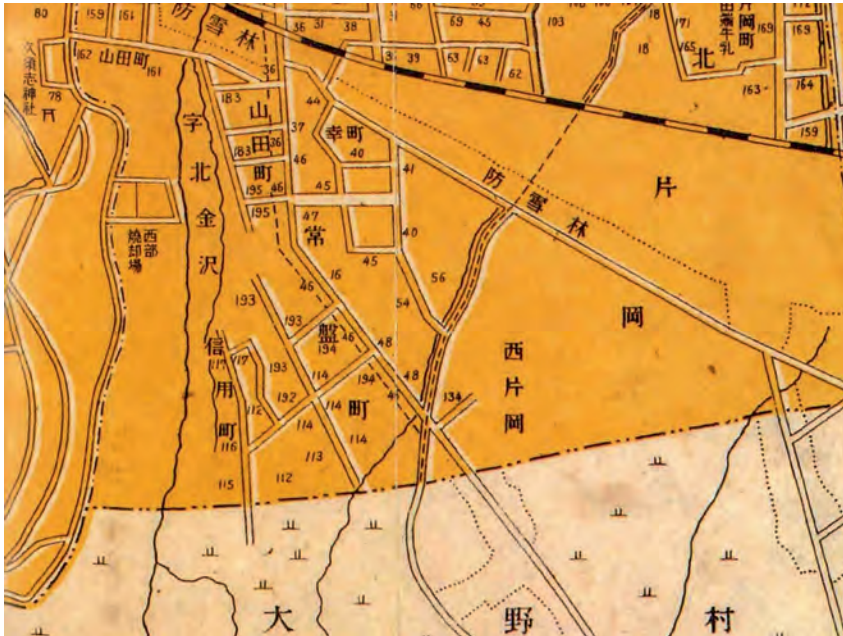
下記二次元バーコードからもアクセスできます



いにしへの「町名」「通り」を知ろう

近現代編①⑦

昭和初期に誕生した「信用町」

村上 亜弥編集委員
(市民図書館歴史資料室)

信用町周辺

(昭和18年「青森市全図」青森市民図書館歴史資料室蔵)

昭和18年(1943)に発行された青森市の市街地図には正式な住所表示以外に山田町や常盤町といった通称名が記されています。今回はその中から信用町を取り上げます。

信用町は北金沢二丁目の一部と金沢一丁目・二丁目の一部を指す町名で、現在は町会名として使用されています。

信用町の名前の由来

肴倉弥八『青森市町内盛衰記』(1953年)は信用町について昭和の初め、菊地三五一を組合長とする「建物信用組合」が地主であって、同組合が区画分譲したため、信用町と命名した」と説明しています。信用町町会が平成元年(1989)に発行した『信用町々会創立五十五周年記念誌』にも同様の記述があり、組合が「土地の区画整理、分

譲の斡旋、資金の融資」などを行ったことで住宅を建てる者が多くなったとしています。また、昭和8年には信用町火防衛生組合が設立されたとい

います。信用町という町名は青森市が昭和10年に発行した『青森市勢一覧表』の地図にも記されており、通称名として定着していたことがわかります。

なお、信用町の南方にある南信用町はもともと月見町と呼ばれていた地域で、昭和29年に町会を設立する際、信用町の南に位置することから南信用町と命名されたそうです(南信用町々会広報部『30年のあゆみ』1985年)。

「建物信用組合」とは

信用町の分譲に関わった「建物信用組合」について調べたところ、昭和2年12月に

設立された青森建築信用購買利用組合という組織を見つけました。組合設立時の理事は日野長次郎・奥田儀三郎・廣海治・佐藤傳蔵の4名で、昭和4年1月に菊地三五一が新たに理事に就任しています(『官報』昭和3年9月29日付、昭和4年4月4日付)。その後、昭和6年2月に青森建築信用購買販売利用組合と名称を変更しました(『官報』昭和6年5月8日付)。

『自治産業発達史』(1932年東京日日通信社)という資料に青森建築信用購買販売利用組合の説明がありました。組合長は菊地三五一、組合の設立目的は土地の購買と建築で、昭和5年3月に「大野村字金沢」において水道・道路を完備した六十数区画を組合員に分けたといいます。『信用町々会創立五十五周年記念誌』に掲載された町会顧問・藤田美栄による文章には父親が昭和5年に居を構えたとあり、組合による分譲の初期に移り住んだことがわかります。

大野村から青森市へ

昭和初期、青森市は周辺の村の一部を合併して市域を拡大しました。大野村は昭和6年12月に村の一部を青森市に合併することを決め、翌年6月に合併が実現しました。この時、大野村大字大野字金沢と字片岡を南北ふたつに分け、北側の北金沢・北片岡を青森市に編入しました。この合併により、信用町は青森市になったのです。